専務理事の選定

ストロスカーン氏を
IMF の専務理事に選定

IMF サーベイ オンライン
2007 年 9 月 28 日

9 月 28 日に元フランス蔵相のドミニク・ストロスカーン氏が国際通貨基金（IMF）の次期専務理事に選定された。IMF 理事会は、理事会の総意により、ロドリゴ・デ・ラト氏の後任専務理事に 11 月 1 日から 5 年間の任期でストロスカーン氏（58 歳）を選定したと述べた。

今 10 月で辞任する意向を 6 月 28 日に表明したラト氏の後任として、IMF 理事会は 2 名の候補者を検討した。ストロスカーン氏はフランス国籍で、欧州連合を代表したドイツの理事クラウス・シュタイン氏から指名された。ヨゼフ・トショフスキー氏はチェコ国籍で同国の首相および中央銀行総裁を務めた経歴があり、ロシア連邦の理事アレクセイ・モージン氏から指名された。

デ・ラト氏は、ストロスカーン氏の選定を歓迎し、ストロスカーン氏は長年にわたる知り合いであり、ともに職務に当たった間柄であると声明で述べた。「私は、彼が重要な局面にあるＩＭＦを統率するのに必要な経験、洞察力、公僕としての献身的な姿勢といった資質を備えていると確信している」とラト氏は語った。

トショフスキー氏とストロスカーン氏は 9 月にワシントンで IMF 理事会との面談を受けた。ストロスカーン氏は理事会に向けた 9 月 20 日付けの声明で、IMF は岐路に立っていると述べた。世界に金融安定性をもたらす重要な機関という IMF の存在そのものが危機に瀕している可能性があり、その妥当性と正当性の再構築は困難な作業になると予想している。

金融安定性とマクロ経済の安定性は、どちらも広義の安全性の主要な決定要因でもあるため、相互に密接に関連している、とストロスカーン氏は IMF 理事会に向けて述べた。「こうしたことはすべて、IMF は創設時とは全く異なる状況の中で中心的な役割を維持しなければならないということを意味するものだ」と同氏は語った。

7 月に EU を代表する IMF 専務理事候補に指名された後、ストロスカーン氏は世界歴訪の途に就いた。その目的は、IMF 理事会に向けた声明で述べた通り、できるだけ多くの IMF 加盟国を訪問することであった。「情報、苦情、および IMF の将来に関する要望を収集するため、新興市場国、開発途上国、ならびに後発開発途上国を中心に訪問した」と同氏は理事会に述べた。ストロスカーン氏はアフリカ、アジア、中南米ならびに中東諸国を歴訪した。

9 月 6 日付けウォールストリート・ジャーナル紙の論説ページで、ストロスカーン氏は次のように述べている「改革の候補者として、変化する世界に適応する一方で、すべての加盟国の考えとニーズを反映するという重大な課題に取り組み、これを達成できるよう、IMF を導いていくことを目指したい」。また、同氏は専務理事に任命された際には「急速に変化する世界経済において IMF が永続的な妥当性を確保するために、野心的な改革プログラムの遂行に必要な支持を得る」ことには自信があると付け加えた。

関連リンク：

プレスリリース
http://www.imf.org/

デ・ラト氏がストロスカーン氏の専務理事選定を歓迎
http://www.imf.org/

ストロスカーン氏による IMF 理事会に向けた声明
http://www.imf.org/external/np/sec/pr/2007/pr07197.htm

アフリカの IMF 理事がストロスカーン氏と面談
http://www.imf.org/external/np/sec/pr/2007/pr07177.htm

ストロスカーン氏のウェブログ
http://www.blogdsk.net/